



日刊動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

94.12.6 No. 4107

12.2 ダイ改阻止総決起集会の成功と基実に 新たな10万人合理化(東本5万人制)粉砕へ!

故川田伸夫君追悼、一二・三ダイ改合理化粉砕、動労千葉総決起集会が、千葉市文化センター・セミナーホールにおいて、組合員二五〇名が結集するなか開催された。

故川田君の遺志を引き継ぎ

新たな10万人合理化阻止へ!

冒頭、急逝した川田伸夫君の遺影に全組合員が黙祷を捧げたあと、あいさつに起った中野委員長は、「今次ダイ改について、攻撃の本質・背景を捉え、いま一步レベルアップした団結力を打ち固めなければならない。貨物では、九三年の赤字決算から、中長期計画による基地統廃合を軸とした抜本的な合理化計画が策定されてきている。一方、旅客では管内二〇〇〇Kmの削減、特急二五系持行路の移管と、合理化と組織破壊攻撃となつてきている。その背景には分割・民営化体制の破綻がある。それは、一九九七年、分・民一〇という法的な見直し作業を前に、もう一回反動的再編攻撃にうって出てきたということであり、単純な合理化攻撃ではない。日本の社会的背景では、今年八月の日経連会長が、「これからの日本は一〇〇〇万を越える失業者の時代へ入った」と、公然と労働者に対し宣戦布告するに至っている。その根底には連合の存在がある。又、重要法案が次々と通っていく。翼賛政治体制のバツクに流れる考え方は、『日本

改造計画』の言う『普通の国』という、戦争のできる軍事力を持つということだ。これが今現われていることの背景であり、もっと強権的な政治体制が柱となつていく。われわれはこうした状況の中で生きていく。ゆえに、動労千葉の力をレベルアップさせ、全国へはばたこう方針の下、動労千葉と共に闘う労組・労働者を結集し、この力を背景にして闘う。その一翼として船橋・中江、勝浦・水野地方選立候補を闘いの一環とし、一段レベルアップさせる、ストを効果たらしめる闘いを作っていく必要がある。社会党の名前がなくなる可能性、地区労も解体している状況、本当に労働者の利益を代表していく労働組合にならなければならない。七〇〇名少数組合が、労務政策の第一級の課題となつていく。内外で動労千葉と共に闘う勢力を、もう一步拡大しなければならぬ。一二・三ダイ改は敵の攻撃の先触れだ。今日の集会が大きな出発点となる」と訴えた。

続いて、故川田君を偲んで新小岩支部・柴崎支部長の甲意がなされ、川田君の遺志を引き継ぎ、貨物合理化との対決に邁進することが明らかにされた。

続いて、中江市議からのメツセージが代読されたあと、勝浦市議選に立候補する水野執行委員が登壇し、「勝浦・館山への組織攻撃に怒りを感じる。分割・民営化での四〇名の解雇、今に至るも『塩づけ』にされている

る強制配転、絶対に見返してやる、職場生産点の闘いを支える地域での運動を作っていく。JRは儲からない線区には列車を走らせない。複線化になっても特急しか走らない。生活列車は奪われ、過疎となっていく。動労千葉の闘いを地域に広げていかなければならないと実感する。動労千葉の議員団を作っていくきたい」と力強いあいさつがなされた。

一二・一八労働者集會に起とう

水野・中江総決起体制を確立!

来賓あいさつ、メッセージが紹介されたあと、本部田中書記長より、本集会の基調が提起さ

闘う労働運動の新たな潮流をめざす

一二・一八労働者集會

と き 一九九四年十二月十八日 (日)

十一時から

と ころ 横浜市・関内ホール

京浜東北線(根岸線)関内駅徒歩三分

指定列車 千葉駅九番線 九時〇四分(始発)

快速列車最後部に乗車すること。

*なお、勤務の関係で集會開始時間に間に合わない場合は、第二陣を次のとおり設定するので指定された列車に乗車して下さい。

【第二陣】

千葉駅一〇番線 十一時一七分(始発)

快速列車最後部に乗車すること。

れ、JR体制の抜本的改革一ゼ口から見直すという攻撃の主要な核は、①、首切り合理化攻撃、②、労使関係の再編成であり、全力をあげて闘い抜かなければならない。この二年間が勝負であること。当面、一二・一八労働者集會から、勝浦・水野、船橋・中江闘争へ突き進んでいくことが明らかにされた。

新小岩・館山・勝浦・京葉・青年部代表の決意表明を受け、全体がいかなる攻撃にも屈しないことこそ、勝利への道であることを確認した。

新たな10万人合理化粉砕へ、戦略を打ち固め動労千葉は、さらにレベルアップした闘いへと進撃する。